

第3学年国語科学習指導案

日 時 令和3年10月15日(金) 5校時

授業者 1組 佐藤 幸恵 2組 蛭田 章久

学習者 3年1組 35名 3年2組 35名

- 1 単元名 例の書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう

教材名 「すがたをかえる大豆」 じょうほう「科学読み物での調べ方」

「食べ物のひみつを教えます」(光村図書 3年下)

- 2 単元について

(1) 児童について

これまで児童は、3年上巻の教材文「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」で、段落や「初め」「中」「終わり」の文章の組み立てや「中」の事例の述べ方に注意して読むことについて学習をしてきた。そこで、「初め」には「問い」の文があり、「中」に問いの「答え」が書いてあることや、「終わり」には文章全体のまとめが書いてあることなど、文章全体の組み立てを捉えて読む学習をしてきた。「中」の部分の学習では、段落ごとのまとまりに気をつけて、内容を読み取ることができる児童が増えてきた。

また、「仕事の工夫見つけたよ」では、自分が興味を持った仕事の工夫を調べ、報告する文章を書く活動をした。友達が「なるほど」と驚くような仕事の工夫を紹介するという、相手意識や目的意識を持って、段落に気をつけて作文を書く活動を行い、感想を交流し合った。

児童は、毎朝のスピーチ活動で日常の出来事を話題に話したり、質問したりする活動を続けている。さらに、他教科においても、ペアやグループでの伝え合いの活動を日常的に取り入れているため、相手の話に興味を持って聞いたり、感想を伝えたりすることは身に付いてきている。

(2) 教材について

本単元は、学習指導要領「知識及び技能」の内容(2)イ「比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと」、「思考力、判断力、表現力等」のC(1)ア「段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること」および内容B(1)ウ「自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること」を受けて構成されている。

本単元は、読むこと教材「すがたをかえる大豆」で、段落相互の関係や考えとそれを支える事例との関係について学習し、書くこと教材「食べ物のひみつ教えます」で調べたり、書いたりする学習につなげていくことをねらっている。大豆は、身の回りにあふれており、子ども達にとって身近な題材でありながら、加工品は見ただけでは分かりにくいいため、意外性を持って児童が興味深く読み進められるものと言える。また、「初め」「中」「終わり」に分けられ、「中」では大豆をおいしく食べるための工夫の5つの事例が接続語を使って簡単なものから複雑なものへと順序だてて整理されている。また、写真資料が効果的に使われている。そのため、段落相互の関係について理解を深めることができる教材と言える。

(3) 指導にあたって

本単元では、教材文を読み取り、その説明文の書き方の工夫を生かして自分が興味・関心のある身近な食べ物を調べ、説明文の形にまとめていく。単元導入にあたっては、「食べ物のへんしんブック」のモデル文を示し、ゴールのイメージを膨らませ意欲を高めてく。また、まとめたあとは

学級の交流会で伝え合うことを知らせ、相手意識を持たせて、取り組ませたい。

次に、教材文を読み、段落ごとに中心文やキーワードに着目させ、内容を整理しながら読みとらせていく。自力解決の後に、ペアやグループ学習、全体での交流の場を設定し、接続語や文末表現・段落内の文の並び順、写真の効果など説明の仕方や筆者の意図に気付かせていく。

単元後半は、自分が調べたい食材を選び、それがくふうによってどんな食品に姿をかえているのか、例を挙げて説明する文章を書いていく。教材文で学習した説明文の書き方をふまえ、読み手に分かりやすい説明文を書くことを目指す。終末は自分達が書いた「食べ物のへんしんブック」を交流し、感想を発表し合う。児童にとって身近な食べ物について書かれた本教材の学習を通して、自分の考えとの共通点や相違点を見つけながら、考えを広げたり、深めたりする力を付けていきたい。また、単元全体を通し、総合的な学習や食育と関連させながら、並行読書や調べ学習を進めるなど、学習の見通しを持ちながら教材文を読み進められるようにしたい。

3 単元の指導計画

(1) 目標

- 比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使うことができる。[知識及び技能] (2)イ
- 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。[思考力、判断力、表現力等] B(1)ウ
- 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。[思考力、判断力、表現力等] C(1)ア
- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。「学びに向かう力、人間性等」

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
①比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解している。((2)イ)	①「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ②「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア)	①積極的に自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にして、学習計画に沿って調べたことを説明文に書こうとしている。

(3) 指導と評価の計画 (全15時間)

時	目 標	主な学習活動	伝え合う活動 (形態)	評価規準・評価方法
1 4	○通読しておおまかな内容を捉えるとともに、学習課題を設定し学習の見通しをもつことができる。 ○全体を「初め」「中」「終わり」に分け、それぞれの内容と役割を捉えることができる。	・「すがたをかえる大豆」を読み大体的内容を捉える。 ・初発の感想を書く。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・段落分けを確かめながら文章全体の組み立てを捉える。 ・「中」で挙げられている事例を整理する。	・初発の感想を交流する。 (ペア→全体) ・「初め」「中」「終わり」の大きな内容を確認する。 (ペア→全体)	

5 (本時) ～ 7	○「中」の部分を読み、挙げられている例の順序について考えることができる。 ○筆者の説明の仕方を話し合っ、まとめることができる。	・それぞれの段落で中心となる文や接続語に注目して、「中」の書かれ方について考える。 ・筆者の説明の仕方の工夫について話し合う。 ・他の食べ物の本を読んで気付いたことを話し合う。	・「中」の段落の説明の仕方の工夫について話し合う。 (グループ→全体) ・筆者の説明の仕方の工夫について話しあい、共有し合う。 (グループ→全体)	【思考・判断・表現②】 <u>発言・ワークシート記述</u> 「中」の段落相互の関係や叙述に着目して、事例の順序の工夫を捉えているか確認する。 【知識・技能①】 <u>観察・ワークシート記述</u> 図や表を用いて集めた情報を整理したり、分類したりしているか確認する。
8 ～ 11	○図鑑や科学読み物などで調べる方法やそれらの説明の仕方の工夫を知り、調べ学習の準備をすることができる。 ○材料を決めて調べ、伝えたい情報を整理することができる。	・調べるときに使える本の種類と使い方について学ぶ。 ・図鑑や科学読み物の説明の工夫について話し合う。 ・食材を決めて調べる。 ・調べた内容を整理する。	・説明の工夫をまとめ、確認し合う。 (グループ→全体) ・調べ方や調べて分かったことについて、考えたことを発表し合う。 (グループ→全体) ・考えた組み立てを友達と読み合い、気づいたところを助言し合う。 (ペア→全体)	【思考・判断・表現①】 <u>発言・ワークシート記述</u> 互いに読み合い、説明する内容とそれを支える事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫しているか確認する。
12 ～ 15	○「食べ物へんしんブック」を書くことができる。 ○完成した文章を読み合い、書き方や内容の両面から、互いの文章のよいところについて、伝え合うことができる。	・組み立てと例の書き方を考える。 ・文章の下書きをする。 ・清書をする。 ・友達と文章を読み合い、感想を伝え合う。 ・単元の学習を振り返る。	・分かりやすい説明のしかたになっているか、文章などに誤りがないかを確認し合う。 (ペア→全体) ・友達と文章を読み合い、感想やよいところを伝え合う。 (グループ→全体)	【主体的に学習に取り組む態度①】 <u>発言・ワークシート記述</u> 積極的に説明される内容とそれを支える事例の関係に着目し、筆者の説明のしかたの工夫を見つけようとしているか確認する。

4 本時の指導（5／15時）

（1）本時の目標 「中」の事例の書かれ方の順序について考えることができる。

（2）本時の評価規準（学習者の姿）

概ね満足できる姿	「中」の段落相互の関係や叙述に着目して、事例の順序の工夫を捉えている。 [発言・記述]
努力を要する学習者への支援	順序性について考えにくい児童には、「つなぎ言葉」に着目させながら、段階的に読み取れるようにする。

（3）本時の展開

段階	学習活動（○主発問 ・予想される学習者の反応）	指導上の留意点
導入 7分	1 前時までの学習を振り返る。 2 本時の学習の課題を確かめる。 ㊦ 筆者は、どうしてこの「れい」の並べ方にしたのか、考えよう。 3 課題解決の見通しを持つ。 ○「中」の部分は、文章全体の中で、何が書かれた部分でしたか。 ・ 問いの答えが書いてある。 ・ おいしく食べるくふうが書いてある。 ・ 食品の名前もある。 ○分かりやすく説明するために、どんな工夫をしているか考えていきましょう。	・ 学習計画を活用し前時までの学習の流れを振り返り、本時の課題を確認する。 ・ 「中」の5つの事例を入れ替えて提示し、筆者がどんな順序の工夫をしたのか知りたいという課題意識を持たせる。 ・ 「文全体の組み立て」の掲示をもとに想起させる。 ・ 前時の学習を想起させ、「問い」の「答え」が「中」の各段落にあることをおさえる。
展開 33分	4 事例の順番を考え、筆者の説明の仕方について話し合う。 ○筆者は、どうしてこの食品の並べ方にしたのでしょうか。 （1）自分の考えを持つ ＜順序について考える視点＞ ・ 大豆の形 ・ おいしく食べる工夫（作り方） ・ 時間 ・ みんなが知っている順にしたと思う。 ・ 作り方がだんだん難しくなっている。 ・ 時間がかかる順だと思う。 （2）グループで話し合う	・ 段落カードや写真カードを並び替えて、事例の順序性について、考えを持たせる。 ・ 写真を効果的に活用し、食べ物や大豆の形が変わっていく様子が視覚的にとらえやすいよう。 ・ 児童の発言をもとに、順序について考える視点となる言葉を板書する。 ・ 根拠となる言葉や文を見つけ、自分の考えとその理由をワークシートに書く。

	○筆者は、どうしてこの順番にしたのかグループで話し合いましょう。 ・形が残っている順番だと思う。 ・みんなが知っている順番だと思う。 ・手間がかからない順番だと思います。どんどん作り方の分が増えているからです。 (3) 全体で確認する ・説明の仕方の工夫について、全体で確認する。 ・8段落の筆者の文にも着目させながら、筆者の事例の説明の順番を理解する。	<伝え合い> (グループ→全体) ・自分の考えを持ち、友達と伝え合うことで、友達の考えとの共通点や相違点に気付かせ、筆者の意図について理解を深めさせたい。 ・グループでの伝え合いの内容を全体で交流することで、考えの多様性に気付かせたり、筆者の意図を捉えさせたりする。 【思考・判断・表現】② <u>発言・ワークシート記述</u> 「中」の段落相互の関係や叙述に着目して、事例の順序の工夫を捉えているか確認する。
終 末 5 分	5 本時の学習をまとめる。 ○説明の仕方の工夫をまとめましょう。 ㊸ れいは、(簡単)なものから(難しい)もののじゅんにならべることで、読者を引きつけている。 6 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 ○筆者の説明の仕方の工夫について、友達と伝え合いをして分かったこと、文作りに生かしたいことを書きましょう。 ○次の時間からは、今日学んだことを生かして、自分で選んだ食べ物について文を書いていきます。	・児童から出された考えをまとめて板書し、まとめや振り返りに生かせるようにする。

5 板書計画

すがたをかえる大豆

か筆者は、どうしてこの「れい」の並べ方にしたのか、考えよう。

教材文の拡大

〈写真〉

工夫・食品のワークシート

- ・ 大豆の形
- ・ おいしく食べる工夫（作り方）
- ・ 時間

③ めいは、（簡単なもの）から（難しい）もののじゅんに
ならべること、読者を引きつけている。